

令和元年10月1日

発行人 長野県民生委員児童委員
協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 広報委員会
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)

特集 第24回長野県民生委員児童委員大会報告



Saku



第24回長野県民生委員児童委員大会

Contents

- ◆ 特集 第24回長野県民生委員児童委員大会報告 …… 2~5
- ◆ 民児協訪問
生坂村民生児童委員協議会 …………… 6
佐久穂町民生児童委員協議会 …………… 7
- ◆ 表彰 …………… 8
- ◆ 報告 令和元年度関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会 …… 8

第24回長野県民生委員児童委員大会報告



第24回長野県民生委員児童委員大会

第24回長野県民生委員児童委員大会が7月25日・26日、佐久市コスモホールで開催されました。

この大会は、3年に一度、一斉改選の年に行われますが、佐久市での開催は初めてです。

大会には、2日間で延べ1,500人が参加。当日は佐久市民児協の皆さんが会場入口に勢揃い、笑顔で来場者を迎えました。



第1日目

佐久市長、知事から 心のこもったあいさつ

初日は、式典と記念講演が行われました。主催者として県民児連の伊藤篤志会長があいさつに立ち、「民生委員・児童委員は、地域共生社会の実現に向け、支え合いの地域づくりの一翼を担い、より身近な相談相手として住民に寄り添うことが期待されている」と述べました。

柳田清二佐久市長は、日ごろの民生委員児童委員活動に感謝を述べ「佐久市は高速道路の整備が進みインターネットエンジが6つもある市、ぜひ楽しんでいってほしい」と佐久市の魅力を紹介し激励しました。

続いて阿部守一知事は入り口での温かい出迎えに触れ「人と人との触れ合いが地域福祉の基本」と話し、県の総合計画で「学びと自治」が民生委員児童委員の信条がまさに当てはまることを訴えました。また、国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）について紹介し、県が「SDGs未来都市」として、グローバルな視点で社会課題に取り組んでいくこと。身近な地域でも「誰一人取り残さない」社会を目指していくこと。民生委員児童委員一人一人の活動が世界や県全体の課題に密接に結びついていることを強調しました。



宮城県仙台市出身。順天堂大学体育学部卒。柔道部主将・柔道五段。卒業後、江戸川学園取手中学高等学校勤務。その後、藤野寿司、ホテルオークラに勤務。オーストラリアで柔道の指導者となる。そのうち、澁谷教育学園澁谷中学高等学校の再建を果たす。平成27年から佐久長聖中学・高等学校校長。



記念講演

「一流の人材が育つ環境作り」 （今と昔）

佐久長聖中学・高等学校 校長 佐藤 康氏

両親の言葉や行動が 自身を教員の道へ

講師の佐藤康校長は、冒頭に「今日の話は自慢話です」と前置きをして、まずご自身のプロフィールを中心に話しいただきました。

そして、佐藤氏のご両親が、ろう・盲学校の教員をしていていつも生徒の親が自宅に相談に来ていたこと。その中で父親が「子は親を選んで生まれてくる。あなたたちが悪いのではない。この両親なら自分を支えてくれると生まれてくるのだ」と説いていたことを紹介しました。こうした環境があっ

たからこそ、自身が教員の世界に飛び込むことができたとのことでした。

柔道の指導者としての 体験を語る

「柔道の指導者となったとき、暴力的な指導は一切やらないと心に決めていた」と話しました。自身が学生時代には「根性論」が主流だったが、ただ頑張るだけでは、世界にはなれないと断言。澁谷教育学園で女子柔道の指導19年で8人の日本一の選手を出したと。モットーは「柔道を好きであってほしい」こと。自分で練習の大切さに気づき、自立性を引き出すことで、日本一から世界一へとステップアップしていくこと。また「指導者の限界を知ること」が大事で、伸びる環境を作ってやるのが真の指導者だと強調しました。続いて自身が関わったメダリスト中村美里選手、朝比奈沙羅選手らの裏話を特別に公開し五輪へ向けての応援を呼びかけました。

どうすれば人が集まるのか

最後に、学校を一から作った体験を通して、どうすれば人が集まるのか？
10力条を示しました。

- 1 「人が集まる場所に」人は集まる
- 2 「夢の見られる場所に」人は集まる
- 3 「噂になっている場所に」人は集まる
- 4 「良いものがある場所に」人は集まる
- 5 「快適なところに」人は集まる
- 6 「満足が得られる場所に」人は集まる
- 7 「自分のためになる場所に」人は集まる
- 8 「感動を求めて」人は集まる
- 9 「人の心を求めて」人は集まる
- 10 「自分の存在感を認めてくれるところに」人は集まる

また、望まれる私学の教師像についても7項目を資料で示し、社会で生かしてほしいと話しました。

- 1 本心で、生徒・親と話ができる
- 2 明るくユーモアがある
- 3 生徒の行動をじっくり見て、そして待てる
- 4 臨機応変に対応できる
- 5 さり気なく、自分の家庭への配慮ができる
- 6 生徒に対して20%の頑固さを持つ
- 7 知識も豊富であり、掌握力も高いレベルである

受賞代表者インタビュー

長野県民生委員児童委員協議会連合会会長表彰

優良単位民生児童委員協議会表彰



▲小諸市南大井地区民児協
(会長：小林幸子さん)

「新1年生の下校時サポートをやって5年以上になります。来年も継続していきたいと思います」

永年勤続民生児童委員協議会会長表彰



▲小平實さん
(佐久市民児協会長)

「今回、開催地の佐久市で受賞できたことは感無量。みなさんのおかげだと思っています。また県大会を230人の委員の協力で開催できたことを誇りに思います」

永年勤続民生委員児童委員表彰



▲由井寿機さん(軽井沢町)

「病氣と闘いながらも、4期12年続けてこられた。皆さんに感謝しています」



▲表彰式の様子

社会福祉表彰：福祉のまちづくり



▲須坂市民生児童委員協議会
(会長：永田繁江さん)

「赤い羽根共同募金の法人からの募金集めに力を注いできました。先輩の努力の上に継続してきた活動が認められ嬉しいです」

長野県知事表彰



シンポジウム
2日目

テーマ 「地域共生社会の実現に向けて」

2日目のシンポジウムでは、県民生委員児童委員協議会連合会副会長の松嶋隆徳氏を司会に、長野市、佐久市、飯田市の委員が日頃の実践活動について発表。その後、意見交換を行いました。県大会で初めて女性3人が発表者となったことにも触れ、ぜひ参考にできればと話しました。各実践発表の一部とディスカッションの様子を要約して掲載致します。

実践1

障害のある人もない人も誰もが助け合い支えあう「人と人の絆」を実感できる住みよい社会を

長野市豊野地区民生委員児童委員協議会会長 土屋 慶子氏

障害者（主に視覚障害者）スポーツにかかわってきましたことをお話しいたします。活動を始めたきっかけは、町の体育指導員として活動をしていて時に声をかけられたことですが、それ以来障害者スポーツ指導員として33年間続けてきました。その中でサウンドテーブルテニス（STT卓球）と出会うことになりました。私は、対象者と触れ合いながら一緒にスポーツすることになりました。そこで、視覚障害者と触れ合う中で、困っている事と健全者に望む事などがあります。まだまだ障害者と健全者の間には、壁があることを実感しています。それを無くすには、障害者スポーツ等で一緒に楽しんだり、ボランテニア等に多くの人が関わることで、理解が深まり壁も無くなる。そして、それが当たり前の中になるように、民生委員児童委員ももっと関心を持って障害者を持つ人と交流していただけたらと思います。

実践2

子ども達が安心して育つことができる「街づくりのために」「顔の見える関係づくりを」

佐久市中込地区民生児童委員協議会会長 土屋 珠江氏

平成29年に中込小学校も「コミュニティスクール」が設立されました。私も運営委員になり、お手伝いをしています。学校長の思い「子ども達の心に故郷中込を刻みたい」、「地域と共にある学校」としてボランテニア活動も組織化され、学校側とも相談連絡がしやすくなりました。登下校見守りボランテニアは昨年4月より開始されました。日々の見守りの中で、子ども達の表情、健康面に注意しています。最初は挨拶をしても元気な声はかえって来ませんでした。最初は顔なじみになるにつれ笑顔で挨拶や会話をしている児童も増えてきました。ボランテニア活動といっても特別なものではなく、全民生委員が日々活動をしている事そのものが全てにつながっている活動だと思えます。子ども達の「身近な大人」となり地域の「子育て応援団」となるため、登校見守りボランテニアを継続していくことの大切さを感じています。

実践3

花の輪人の輪 地域の和！ ～地域に咲いた華の和25年のふれあい！～

飯田市上村地区民生児童委員協議会副会長 前島 三津江氏

遠山郷の玄関口上村は高齢化率が53%を超え、高齢者の半分以上が独居です。山奥に1人で住む95才の女性は、夕方テレビの長寿番組が始まる前に3人の仲間と電話で安否を確認し合っています。25年前に生け花を教えるという要望があり、ボランテニアで教え始めました。それがサロン活動「高齢者クラブ華の和サロン」となり継続していききました。2年前から地域支え合い活動補助金をいただき活動しています。現在最高齢は92才。80代が半分です。サロンのメンバーは、春に苗木を植える活動を、また文化祭では作品展もしています。小学生の生け花体験も行って、親も子もお年寄りも一緒に楽しんでいます。地域の成人式や入学式などの生け花も頼まれるなど、サロンを通して和が広がっています。メンバーのお宅で、銀行の方に「この地域はどのお宅にも玄関先に花がある」と褒められたとのこと。花のおかげで心豊かな地域生活が送れています。

参加者インタビュー



茅野市民児協のみなさん

「佐藤先生よりトップ選手に関する話が聞けて、東京五輪が楽しみになりました」



岡谷市民児協のみなさん

「佐久市長も知事も民生児童委員を頼りにしている談、説得力がありました」



木曾郡民児協のみなさん

「佐藤先生の話から、人を指導する人の苦労を学ぶことができました」



根羽村民児協のみなさん

「スポーツが大好きです。佐藤先生の話参考に子どもたちに接したいです」



小海町民児協のみなさん

「佐久平の良さを多くみなさんにアピールできた。小海町にも遊びに来てほしい」



千曲市民児協のみなさん

「佐藤先生の指導者としての体験の話が良かった。ポイントを掲載してほしい」

※スペースの関係で取材者全員の掲載ができずお詫び申し上げます

シンポジウム

ディスカッション



◆**松嶋** 33年を超える土屋慶子さんの障害者とのかわりは素晴らしい。しかしまだ理解が進まず、障害者と接する機会が少ないですね。

◆**土屋（慶）** 壁は厚いと思います。長野市のサンアップルという施設でボランティアを募集しています。健康者も利用できるのぜひ見に来ていただきたい。

◆**松嶋** コミュニティスクールについて発表いただいた土屋珠江さん。学習支援で子どもたちの反応はいかがですか。

◆**土屋（珠）** 学習支援の日程が4日間で終わる後に、5年生の男子が校長に「なぜボランティアがもう来てくれないのか。校長先生が決めたのか」と直談判したそうです（笑）。玄関まで見送ってくれるなど子供たちの反応がいい。また参観日に未満児を預かる活動もしていますが、おじいちゃんもいて男性委員の出番もあります。

◆**松嶋** 前島さんは花を通した活動が活発にされているようですが今後の課題は。

◆**前島** 実は高齢化でメンバーが少しずつ減っていますが、親子華の和サロンを計画していますが、昨日の佐藤先生の話を参考に人集めをしたいですね。

◆**松嶋** 皆さんに伝えたいことはありますか。

◆**前島** 委員を引き受けた時は悩みの毎日でした。サロンが自分の励みとなり、少しでも役に立っているという実感が持てました。いい仲間に出会えて今は感謝しています。

◆**土屋（珠）** 民生児童委員をしてこなかったら何も発表できなかった。6期続けてきて、高齢者や子どもとの関りも持てました。やってあげているのではなく、自分のためにやっていることが改めてわかりました。

◆**土屋（慶）** 多くの方の前で、障害者への思いを発表できたことはありがたく思います。思い切って障害者に声をかけてほしいと思います。

◆**松嶋** 3人の発表を聞いて継続は力なりと感じました。民生児童委員への期待が高まる中で、今まで通り地道に続けてきた活動を実践していくことが地域共生社会の実現に大事だと思っています。



▲司会の 松嶋 隆徳 氏

佐久市民生児童委員の皆様お疲れさまでした！



▲佐久市民生児童委員のみなさんの笑顔での出迎えと見送りが評判でした！



スタッフは佐久市復興支援ボランティアに民児協のマークを入れ着用しました！



▲会場ホワイエには佐久の名産品や福祉事業所の方の販売コーナーがありました

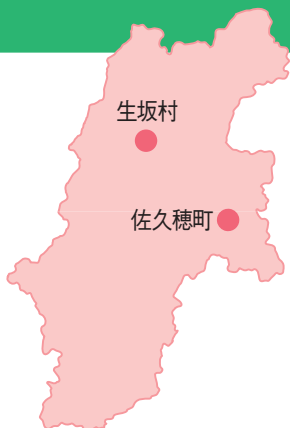


▲アトラクション:佐久市健康長寿体操(出て鯉サポーターのみなさん)にみんな挑戦しました



▲民生委員の歌「花咲く郷土」合唱 (指揮・コーラス:佐久市民生児童委員のみなさん)

訪問



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーです。

民児協
だより



生坂村民生児童委員協議会



▲小さな村は連帯感も抜群。前列中央が大澤彰治会長。

豊かな自然環境は災害と隣り合わせ。
視察や研修で備える。

生まれも育ちも生坂村の大澤彰治会長は、村の魅力を「自然しかないこと」といいます。コンビニが一軒もなく、商店が一軒だけ。定例会会場の「健康管理センター」は村の中心部にありながら周囲は田んぼで、さらにその周りは里山の美しい景観が広がっています。今年4月にオープンしたばかりの「道の駅いくさかの郷」に、地元の農産物だけでなく日用品を置いて

いるのは、そんな事情からなのでしょう。

閑静な山間地で最も大きなイベントは、毎年10月開催の「赤とんぼフェスティバル」。伝統ある「生坂龍翔太鼓」の演奏をはじめ、2日間にわたる多彩なステージ発表で盛り上がり、日ごろ裏方の民生委員児童委員にとっても表舞台での活動の機会。村社協と共同で、アメリカカンドックを販売するのです。例年、ほどなく売り切れてしまいます。それはブースで待つのではなく、委員たちが人々の間を回って売り歩くから。収益金は社協の活動費用として活かされています。

恵まれた自然環境は、一方で地滑りなど自然災害の危険を、常にはらむこととなります。「スカイスポーツ公園」として、眺望やパラグライダーで親しまれている高台は、森を切り開いたように見えますが「地滑りで開けたもの」と大澤会長。山岳部が大部分を占めるだけに、どこで起きても不思議はありません。

そこで今年の視察旅行は阪神淡路大震災を語り継ぐ淡路島の「北淡震災記念公園」へ。各住



▲地震と災害について学んだ視察旅行

民の状況を把握しておいたことで犠牲者を出さなかったとの経験談に感銘を受けたという大澤会長。個人情報保護との関係が気になっているところ。地形で共通点の多い麻績村と築北村を入れた東筑摩郡北部三村のブロック大会でも、災害に備えるための研修会を行っています。

民生委員1期目でいきなり会長就任という大澤会長は、これを機に退職する予定だった会社から請われて週に3日は松本市に通勤という現役の68歳。今回はまず民生委員としての活動に慣れ、2期目から独自色を出していくことと考えています。

佐久穂町民生児童委員協議会



▲富山県への研修旅行での集合写真

赤ちゃん訪問をスタート。研修や交流にも力を入れ、風通しのいい協議会運営を実現。

2005年、佐久町と八千穂村が合併した佐久穂町は人口約1万1千人。北八ヶ岳が有する原生林や湖の雄大な自然はもちろん、高原野菜の産地としても知られています。民生児童委員は43人、内、主任児童委員が3人です。

「1期目の最初に、旧佐久町と旧八千穂村の委員が互いの地域を視察している」と話すのは会長の井出とし子さん。互いの文化の違いとところを理解尊重した上で委員活動を進めています。

8月の定例会では、関連団体からの連絡の後に、委員2人が「地域の現状と課題」を発表しました。その一人坂本道江さんは地域の元気な一人暮らしのお年寄りの姿を紹介し「私もこんなふう生きられたらと感じた。委員の活動を通して世の中の見方も変わった」とコメント。この発言をきっかけにサロンの運営について地域ごとの現状を共有しました。

全委員が高齢者・障害者・児童の三つの部会に分かれて活動しています。3年ですべての部会を経験し、視察研修など様々な活動に取り組みます。定例会では、障害者部会の委員が、障害者と作業を体験した様子を発表したり、児童部会の委員が視察した少年院や刑務所のしくみまで詳しく紹介していました。

活動の特徴として、この夏より赤ちゃん訪問がスタート。3年前から子どもたちとの関係作りを模索。新生児訪問の際に保健師と同行し民生児童委員の顔を知ってもらう活動が始まりました。また昨年からは協議会の定例会を年2回、佐久穂小中一貫校で開催することで、校長をはじめ教員との関係作りを行い、授業参観も行っていま



▲定例会の後の各部会でのミーティングの様子。左手前が井出としこ会長。

す。また保育園3園での給食試食会も今年で2年目です。

34人集まる定例会では委員同士が物おじせず、自由に自分の意見や調べたことなどを述べ合える風土が育っているという印象でした。これは会長の井出さんをはじめ、副会長2名、会計2名の5人の役員が毎回役員会を事前開催していることが大きな要因です。

通常の定例会の前にはミニ学習会を開催。定例会後に年数回は部会ごとのグループワークも行います。また年1回委員同士の席替えなどをしたり、研修旅行をし、交流を深めて委員同士の関係作りにも力を入れています。「仲間に恵まれ活動は楽しい」と役員5人は口をそろえて話してくれました。



表紙写真紹介

重要文化財・国史跡

佐久市旧中込小学校

撮影

佐久市中込地区民生児童委員協議会会長

土屋 珠江さん

profile

佐久市にある旧中込小学校は明治8年(1875)に建築され、我が国に現存する擬洋風学校としてはもっとも古い学校建築の一つです。

令和元年7月25日～26日、第24回長野県民生委員児童委員大会の2日目シンポジウムで、旧中込小学校を紹介するために、長男の妻(義娘)と2人で見学に行き撮影しました。(4月14日撮影)



長野県民生委員児童委員協議会連合会会長表彰

令和元年7月25日(木) 第24回長野県民生委員児童委員大会において表彰

○永年勤続民生委員児童委員表彰 (10名)

軽井沢町 園部 桂子	軽井沢町 土屋 靖國	軽井沢町 由井 寿機	池田町 高山 桂司	長野市 松尾 修一郎
〃 土屋 京子	〃 上田 ルリ子	麻績村 高野 木曾美	山ノ内町 竹田 時治	飯田市 松村 由美子

○永年勤続民生委員児童委員協議会会長表彰 (23名)

御代田町 内堀 隆久	松本市 松田 妙子	松本市 目黒 弘	諏訪市 宮坂 正義	塩尻市 角田 みやこ
山ノ内町 竹田 時治	〃 山本 雄二	〃 高野 昭子	〃 小澤 清一	松本市 佐久市 小平 實
長野市 岩下 秀雄	〃 草深 邦子	〃 高林 達臣	須坂市 牧野 勇治	安曇野市 増田 早苗
〃 徳竹 貞夫	〃 淺田 武門	〃 小口 瀧明	小諸市 小林 幸子	
〃 中澤 惇夫	〃 塩原 正壽	飯田市 奥村 哲也	塩尻市 山崎 昭子	

○優良単位民生児童委員協議会表彰 (4 協議会)

松本市島内地区民生委員児童委員協議会 / 飯田市上村地区民生児童委員協議会 / 小諸市南大井地区民生児童委員協議会 / 飯山市秋津地区民生児童委員協議会

長野県知事表彰 (1 協議会)

令和元年7月25日(木) 第24回長野県民生委員児童委員大会において表彰

社会福祉表彰：福祉のまちづくり 須坂市民生児童委員協議会

長野県社会福祉協議会会長表彰 (民生委員・児童委員功勞) 17名

令和元年9月20日(金) 第68回長野県社会福祉大会において表彰

軽井沢町 由井 寿機	阿南町 木下 喜久雄	大鹿村 梶 君江	山ノ内町 竹田 時治	長野市 建守 エクヨ
〃 上田 ルリ子	〃 南島 美知子	小布施町 中條 雄三	信濃町 原山 公平	松本市 平林 とみ子
〃 土屋 京子	天龍村 大平 宮正	高山村 牧 輝夫	長野市 中村 由美子	飯田市 久田 恵子
〃 土屋 靖國	大鹿村 北澤 幸夫			

報告 令和元年度関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会

7月4・5日関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会が神奈川県川崎市の川崎日航ホテルで開催され、長野県からは役員など11人、関東ブロック1都10県8市の民児協から総勢約300人が参加しました。

1日目は「優しさと勇気の育て方～夜回り先生、いのちの授業」と題して、花園大学客員教授 水谷修氏の記念講演などがありました。

2日目は4つの分科会に分かれ、長野県から県評議員であり須坂市民児協の会長でもある永田繁江さんが第4分科会で「地域で支え 人にやさしいまちづくりを目指して」をテーマに実践報告を行いました。区(町)ごとに区長、民生児童委員、消防団員、赤十字奉仕団員など関係機関団体による「ネットワーク会議」を組織し、配慮を要する高齢者や障がい児者等に対して個々に見守り訪問者・地域支援者を決め活動していることを報告し、それを一覧にした「新・地域見守り安心ネットワーク組織表」の見本や各家庭の冷蔵庫に貼る「暮らしの安心板」を示すなど、参加者から大きな関心が寄せられました。



分科会の様子

(報告/事務局)

早いもので、間もなく改選期を迎えます。長いようでもあり、アツという間の3年間にも思え、振り返ると全て学びの年月であったと感じています。また、民生委員制度創設100周年という佳節に立ち会うこともできました。

今号では、酷暑の中、佐久市で行われた「第24回長野県民生委員児童委員大会」の概要を特集として取り上げました。

私も2日間、会場に足を運びましたが、特に「地域共生社会の実現に向けて」がテーマのシンポジウムが印象に残りました。3人の委員による実践発表は、いずれも日頃の活動体験に根ざした事例で興味深く傾聴しました。

大会は「花咲く郷土」の歌声とともに終わりましたが、準備段階から大会の運営を支え、あふれんばかりの笑顔で私たちを迎えてくださった佐久市民児協の皆さんに改めてお礼申し上げます。

今回の改選を機に退任される方、意を新たに留任される方、思いはさまざまだと思います。私たちが行ってきた活動は、それぞれの地域の足跡となって、これからも引き継がれていくはずですよ。

(増田 早苗)



編集委員 / 熊井 文弘・土屋 珠江・増田 早苗・深澤 保雄